

真菌医学研究センター Monthlyセミナー

平成28年 2月16 日(火) 17:30~18:30
千葉大学真菌医学研究センター 大会議室

腸内細菌による宿主免疫系の活性化機構

慶應義塾大学医学部微生物学・免疫学教室

新 幸二 先生

私たちの腸内には数百種類の腸内細菌が生息しており、食物繊維などの食事成分の分解、ビタミン類の合成のみならず、腸管免疫系の形成や活性化・維持に重要な役割を担っていることが明らかになってきています。また、腸内細菌叢を構成する細菌種が偏った異常な状態“dysbiosis”になると、炎症性腸疾患、アレルギー、糖尿病、がん、肥満など様々な疾患の発症につながるものが強く示唆されています。しかしながら、腸内細菌のどのような異常が疾患発症につながるかはまだよくわかっておらず、数百種類存在している腸内細菌の個々の細菌種の役割を解明することが求められています。我々はこれまで、腸管免疫系に強い影響を与えている細菌種を同定し、そのメカニズムの解明を行ってきました。その結果、セグメント細菌がTh17細胞の誘導・活性化に関与していること(Cell, 2009、Cell, 2015)クロストリジア属細菌がTreg細胞の誘導に関与していることを見出しました(Science, 2011、Nature, 2013)。また、最近では口腔内細菌が腸管免疫系に影響を与えているという知見も得られており、これまでの研究成果と合わせてご紹介したい。

共催： 千葉大学リーディング研究育成プログラム推進候補課題・“超個体”の統合的理解に基づく次世代型「感染制御学」研究推進拠点
東京大学医科学研究所細菌感染生物学社会連携研究部門・特別推進研究「病原細菌の自然免疫克服戦略の解明とその応用」

世話人&連絡先： 西城 忍(千葉大学真菌医学研究センター感染免疫分野)
(Tel: 043-226-2798, E-mail: saiyo@faculty.chiba-u.jp)